

インターバンクの声（2016年12月26日）

22日の木曜日、本邦勢が天皇誕生日から週末へと続く3連休に向かう中、ニューヨーク市場の円相場は11月の米個人所得と個人支出の伸びが予想されたよりも弱く、117円20銭台までドルが売られた。

その後117円60銭台まで値を戻したものの、東京市場が休場の中でのアジア市場からロンドン市場でもドルの上値は重く、金曜日のニューヨーク市場では11月の米新築住宅販売や12月のミシガン大学消費者景況感指数が市場予想を上回ったにも関わらず円高・ドル安に振れて117円10銭台まで下落した。

米株価の伸び悩みや米長期金利の上昇一服が原因なのか、ドルの買い持ちポジションを調整する動きが優勢に見える。活発な商いのもとでの相場ではなく所詮117円台での値動きで、ドルが反落局面に入ったとは考えにくいですが、ややドルへの強気度合いが薄れているのは確かだ。年末が迫ってリスクを取らない銀行も多く、ロンドン、ニューヨーク市場も休場とあって相場も薄く、117円を割り込んだ際には予想外の下落もある可能性もあり注意が必要だ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。